



わが家のアイドル

旧岡方村にお住まいの

平井 才一郎さん・いづみさんの

長女 ^{あんな} 杏 ^な 奈ちゃん(1歳1カ月)

こんにちは「あんな」です。
歩くのが、とっても上手になったよ。
いつも お兄ちゃん達のあとを
おっかけてるの。
散歩も寒くても へっちゃらよ。



下田市内の指定文化財 ⑮

下田市指定有形文化財

下田八幡神社 鰐口

所在地 下田市一丁目

指定日 昭和44年4月25日

初詣や厄払い、陰祭りや例大祭(下田太鼓祭)などで知られる下田八幡神社には、下田という町の成り立ちを考える上で重要な証拠となる鰐口が所蔵されています。



下田八幡神社

下田八幡神社
八幡神と牛頭天王、天照皇大神が祀られています。神社縁起には天治2年(1125)、稻生沢川の中州に出現した牛頭天王を祀ったのが初めとされ、鎌倉時代後期の正応年間には若宮が創建されたといえます。室町時代後期の永正4

年(1507)に八幡神社が再建され、やがて下田を代表する神社となりました。江戸時代初期には縄地金山奉行大久保長安によって社殿が修造されるなど、下田奉行をはじめ多くの人々に崇拜されながら今日に至っています。



下田八幡神社「ペリー提督日本遠征記」挿絵

下田八幡神社の鰐口

鰐口は寺社仏閣に参拝するときに鳴らす鐘のことです。

下田八幡神社の鰐口は、江戸時代に神社裏山から掘り出されたもので、銘文には「下田村若宮」「応永6年(1399)大願主平良盛」と記されています。注目すべきは南北朝・室町時代初期にあたる「応永」という年号と「下田村」という地名が刻まれていることです。これが文字として残る「下田」の最も古い例であり、この時代に下田が村落として成立していたことを示す証拠

となっています。鰐口は青銅製で、面の直径は約22センチです。願主である平良盛の人物像については残念なことに記録が無く、地元の有力者だったということしかわかっていません。



下田八幡神社蔵 鰐口

下田にいつごろ村ができたのかは定かではありませんが、室町時代には下田村と呼ばれる村落があったことを下田八幡神社の鰐口は物語っています。しかし、稻生沢川河口の湿地帯であったため大きな村にはならず、今日につながるような町が形成されたのは、上方と江戸を結ぶ海上交通の中継地として下田が大繁栄した江戸時代以降のことと考えられます。

アクセス
伊豆急下田駅より 徒歩5分

問合せ先

教育委員会生涯学習課

☎ 5055

